

令和5年度（2023年度）上期の空知管内における訪日外国人宿泊者数調査結果の概要

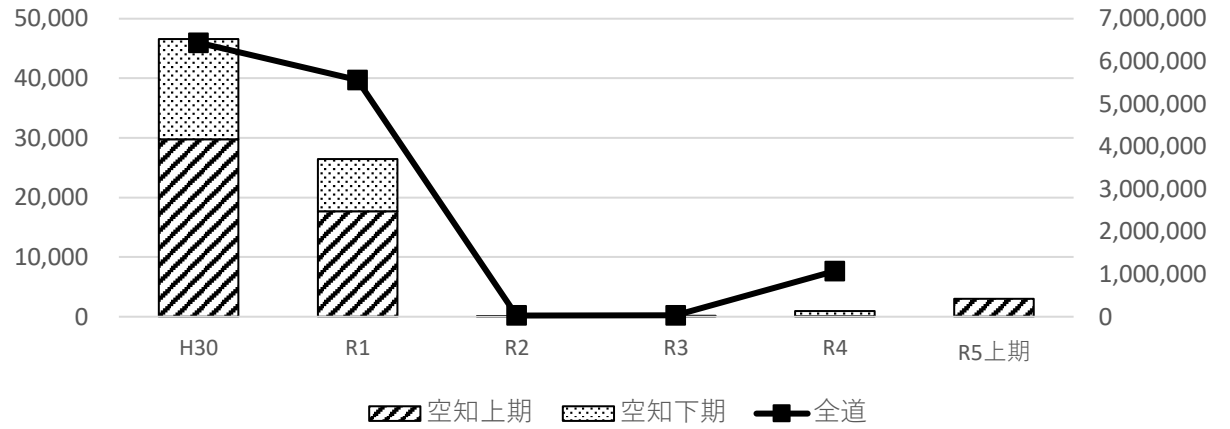
令和6年（2024年）2月2日
空知総合振興局産業振興部商工労働観光課

1. 概要

令和5年度（2023年度）上期の空知管内における訪日外国人宿泊者数（実数）は3,044人となり、前年度同期の96人から、2,948人（3170.8%）の増加となった。

年度別推移

（単位：人）



※R5上期全道分は集計中

（単位：人）

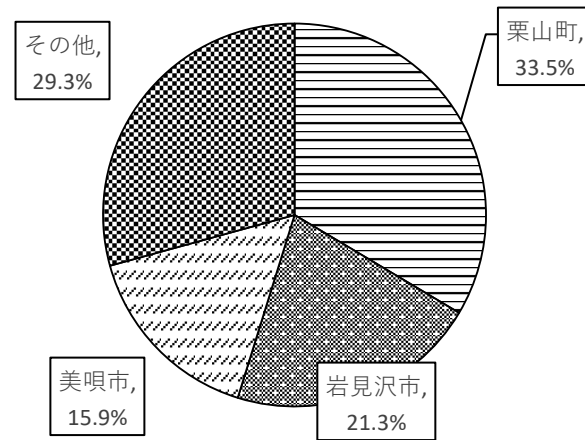
	H30	R1	R2	R3	R4	R4上期	R5上期	対前年度同期増減	対前年度同期比
空知管内計	46,570	26,438	53	70	955	96	3,044	2,948	3170.8%
上期計	29,802	17,672	18	59	96	96	3,044	2,948	3170.8%
下期計	16,768	8,766	35	11	859	-	-	-	-
宿泊客延数	51,929	29,695	71	79	1,016	97	3,611	3,514	3722.7%
全道シェア	0.72%	0.48%	0.19%	0.24%	0.09%	-	-	-	-
全道計	6,435,854	5,557,154	27,478	29,523	1,071,812	31,761	-	-	-

※R5上期全道分は集計中

2. 市町別

管内24市町のうち、外国人が宿泊したのは計12市町となり、多い順に栗山町（1,021人）、岩見沢市（647人）、美唄市（485人）、芦別市（268人）、三笠市（212人）、滝川市（186人）、由仁町（105人）、南幌町（29人）、秩父別町（28人）、新十津川町（26人）、深川市（22人）、砂川市（15人）となった。

市町別構成比



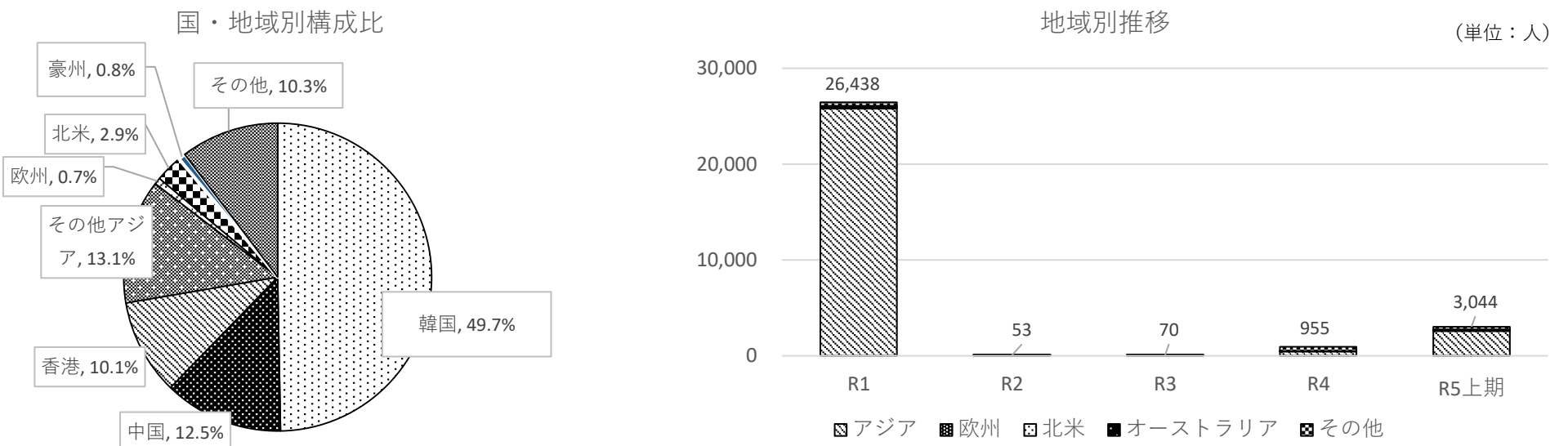
（単位：人）

		H30	R1	R2	R3	R4	R5上期						
管内計		46,570	26,438	53	70	955	3,044						
上位3市町	1	夕張市	39,583	夕張市	20,615	滝川市	28	滝川市	55	美唄市	542	栗山町	1,021
	2	栗山町	2,623	栗山町	1,556	岩見沢市	23	深川市	5	岩見沢市	135	岩見沢市	647
	3	三笠市	1,179	三笠市	1,375	深川市	2	岩見沢市	4	滝川市	88	美唄市	485

※H30、R1の夕張市の入込数の多くはホテルマウントレースイ利用者

3. 国別

国別で見ると、韓国が1,513人で最多となり、次いで中国（382人）、香港（306人）などの順となった。全訪日外国人宿泊者数（3,044人）のうち、85.4%にあたる2,599人がアジアからの宿泊者だった。

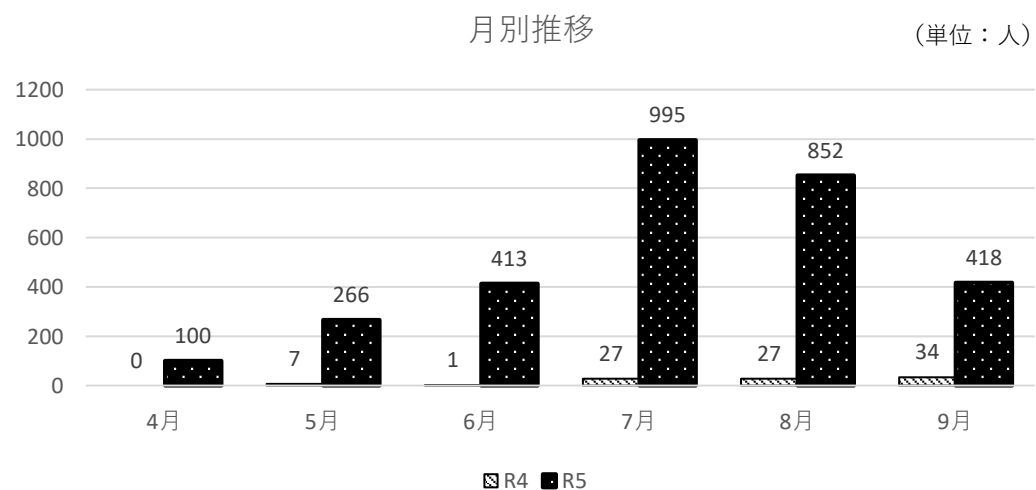


(単位：人)

		H30		R1		R2		R3		R4		R5上期	
管内計		46,570		26,438		53		70		950		3,044	
アジア計		45,795		25,798		42		55		444		2,599	
上位5か国	1	台湾	24,639	台湾	11,111	ベトナム	13	インドネシア	24	ベトナム	117	韓国	1,513
	2	中国	7,999	中国	7,025	韓国	8	ベトナム	18	中国	104	中国	382
	3	韓国	5,690	韓国	2,842	中国	5	中国	12	シンガポール	88	香港	306
	4	マレーシア	3,564	香港	1,608	香港	4	韓国	1	韓国	37	台湾	184
	5	タイ	1,723	マレーシア	1,564	フィリピン	4	—	—	香港	35	シンガポール	67
その他		2,180		1,648		8		0		63		147	
欧州		94		82		6		5		18		21	
北米		205		140		3		2		14		87	
オーストラリア		82		74		2		0		18		23	
その他		394		344		0		8		456		314	

4. 月別

月別で見ると、7月が995人と最多となり、8月852人、9月418人、6月413人と続き、結果として主に第1四半期後半（6～9月）から訪日外国人が集中した。



5. まとめ

令和5年度（2023年度）上期の訪日外国人宿泊者数は、前年度同期と比較すると、3170.8%の増加となったが、新型コロナウイルス感染拡大前の令和元年度（2019年度）同期の訪日外国人宿泊者数との比較では、17.2%の回復に留まっている。

国内における傾向として、令和4年10月11日以降、国の水際対策緩和を契機に訪日外国人が増加しており、空知管内においても同様の傾向が見られる。空知管内では、韓国からの来訪が多くなっており、特にゴルフツアーの利用者が増加している状況が見られる。これは、昨年からの為替動向が要因の一つと考えられる。